

日よ、月よ、風よ 詩篇 148:1-14	2023.11.5 中央 NO.712 春日部福音自由教会 山田豊
----------------------	--------------------------------------

本日は、ボーイスカウト春日部第10団のキャンプの早朝の礼拝の後、こちらに来ております。子供たちは本日夕方、帰る予定です。

詩篇148をテキストとした説教は3回目になりますが、イスラエルVSハマスの状況が刻一刻と変わる中で、このみ言葉の黙想が変わっているのを感じます。

人にとって難しいことが二つある、神を賛美することと人を救うこと、以前から語ってきたことです。神に造られた被造物は、知れば知るほどその不思議さやスケールの大きさに圧倒されます。天や地や海、その中にあるすべてのものが、いろいろな仕方で神を賛美しています。しかし、大きな困難や不条理な仕打ちを受けてへこんでいる私たちは、そのことに気が付きません。そこに気づけば、かつて探検家マンゴパークが強盗に襲われて半死半生になったとき、砂漠に咲く小さな植物も神によって生かされていることを悟って力づけられたように、私たちも苦難の中で立ち上がることができるのです。

富山県新庄町に教会を設立した亀谷凌雲師は、由緒ある浄土真宗のお寺の住職でしたが、回心し、牧師となりました。著書である「仏教からキリストへ」にこう書かれています。

日と月とはぜんぜん異なる。別のからだである。日は昼に輝き、月は夜輝いている。日は昼さんさんと輝き、月は夜こうこうと輝いている。しかしそもそも月の光とは何ぞ。まさしく日の光、太陽の光そのものではないか。他の何物でもないのだ。ぜんぜん太陽の光のみの反射なんだ。反映なんだ。仏教はまさしく月のそれではないのだろうか。無神教といいつつ、神の御光そのものを輝かし続けてきたのではないか。さらば仏教は基督教の敵ではない。むしろ基督教の前駆者であり、案内者ではなからうか。これをバプテスマのヨハネになぞらえるのは誤りであろうか。

日も月もそして風も、神のことばによって造られたものです。神を賛美するだけでなく、私たちに命の営みを直接与えてくれているのです。義の太陽ともいわれるイエスが、ひと言葉をもってガリラヤの嵐を静められました。騒ぎ経つこの時代にあって、主のみ言葉に聞く日々こそ、平安をいただき、神を賛美する源となるでしょう。

引用聖句

創世記 1:7 神は大空を造り、大空の下にある水と大空の上にある水を分けられた。すると、そのようになった。

創世記 1:21 神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。

創世記 2:7 神である【主】は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

ローマ 8:22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

ヨハネ 3:8 風は思いのままに吹きます。その音を聞いても、それがどこから来てどこへ行くのか分かりません。御霊によって生まれた者もみな、それと同じです。」

マルコ 4:35-41 さてその日、夕方になって、イエスは弟子たちに「向こう岸へ渡ろう」と言われた。36 そこで弟子たちは群衆を後に残して、イエスを舟に乗せたままお連れした。ほかの舟も一緒に行った。37 すると、激しい突風が起こって波が舟の中にまで入り、舟は水でいっぱいになった。38 ところがイエスは、船尾で枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして、「先生。私たちが死んでも、かまわないのですか」と言った。39 イエスは起き上がって風を叱りつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、すっかり凪になった。40 イエスは彼らに言われた。「どうして怖がるのですか。まだ信仰がないのですか。」41 彼らは非常に恐れて、互いに言った。「風や湖までが言うことを聞くとはい、いったいこの方はどなたなのだろうか。」

マタイ 4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」